

第3回新潟市行政改革点検・評価委員会議事概要

日 時	平成 24 年 10 月 1 日 午後 1 時～午後 3 時
会 場	市役所本館 6 階講堂
出席委員	田巻清文委員長，大橋誠五委員，佐野由香利委員，鷺見英司委員，渡邊信子委員 (委員長を除く 50 音順)
次 第	1 開会 2 総務部長あいさつ 3 議題 (1) これまでの意見のとりまとめ (2) 提言骨格(素案)について (3) その他 ・政令市にいがたのあり方検討委員会の検討状況報告 ・新潟市事業仕分け外部評価会議の結果報告 ・行政改革作業チームの意見 4 閉会
議事概要	<p><開会></p> <p>(能登谷総務部長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日、第 3 回の評価委員会ということでお集まりいただいた。 ・第 1 回目の評価委員会が 6 月、第 2 回目が 7 月で、少し時間があき本日第 3 回目だが、この間、皆様方からご要望のあった資料の取りまとめや、第 1 回と第 2 回を踏まえて、皆様方から改めてご意見を伺ったので、それらの取りまとめをした。 ・本日からは、提言の取りまとめに入っていただくので、今日はその素案・骨格等もご審議いただく予定。 ・大変お忙しい中だが実りのある会議になるようお願いし、開会の挨拶とさせていただきます。 <p><委員長の選任></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今井委員長が一身上の事由により退任された。 ・委員の互選により、田巻清文委員に委員長をお願いすることとした。 <p>(本間行政経営課長補佐)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料の確認等(省略) <p>(田巻委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の委員会から時間が経っているので、これまでの経過を整理したい。 ・6 月 7 日の第 1 回委員会では、「行政改革プランの意義」、「本委員会の役割」、「これまでの新潟市の行政改革の取組状況」について、事務局から説明いただき、「新潟市の現状」、特に「財務、組織、職員の新潟市としての現状認識」、「外部評価の状況」についてご議論いただいた。 ・7 月 11 日の第 2 回委員会では、「新潟市の現状」について掘り下げるとともに、「行政改革プラン 2010 の取組評価」についてご議論いただいた。 ・その後、皆様から「これまでを通じたご意見」を事務局にご提出いただき、本日の第 3 回委員会に至った。

- ・それでは、議事に移る。
- ・はじめに、議題の（１）「これまでの意見のとりまとめ」、（２）「提言骨格（素案）について」は、一括して議論していきたい。
- ・皆様から出していただいたご意見、提言骨格（素案）を事務局から整理していただいたので、簡単に説明をお願いします。

<（１）これまでの意見のとりまとめ>

（佐野行政経営課長）
資料について説明（省略）

<（２）提言骨格（素案）について>

1. 行政改革プラン 2010 の点検評価について

（田巻委員長）

- ・この内容については、委員の皆様からご意見いただいたものを、一覧表にしてまとめて整理していただいたということである。
- ・これからの議論については、項目が非常に盛り沢山で、大項目 1、2、3 とあるので、それに区切って 1、2、3 という順番で議論いただきたい。
- ・まず、1 番「行政改革プラン 2010 の点検評価について」、項目として（１）、（２）とあるが、これについての皆さんのご認識について伺いたい。
- ・大橋委員、いかがか。

（大橋委員）

- ・1 の「2010 の点検評価」ということだが、大まかな話で申し訳ないが、まず、2010 の設定がなされた期間について、もっとスピーディーに、期間を短縮していった方がいいと言う意見を述べさせていただいた。
- ・皆さん共通認識であるように、今急速に、人口減少社会かつ少子高齢化という構造になっている。
- ・それに伴う部分もあるが、国の中央政府の財政も急速に悪化していると私は理解しているため、「概ね今までの設定がうまくいっているのではなかろうか」ということが共通認識になっているが、私は決してそういう風に考える楽観論者ではない。
- ・国から発表された高齢者の白書を見ていたら、既に 4 人に 1 人が 65 歳以上の人口構成はもちろんのこと、65 歳以上の方がいる家庭が 5 割近くになってきている。
- ・新潟市自体のデータは承知していないが、40 数パーセントの世帯に 65 歳以上のいわゆる高齢者がいる状況になってきている。
- ・それに伴って、様々な社会現象、問題化しているケースが散見される。そういうところから見ると、今の新潟市の進捗状況や設定期間あるいは評価、これが本当にここに記載されているような、「概ねよろしいのではなかろうか」ということでいいのか、少し批判的にというか、もっと厳格に現実を見ていった方がいいのではないかということ、これが一点。
- ・様々な他の部門とも関係してくるので、1 番の「2010 の点検評価」に関して言えば、我々今まで説明を受けた部分については、その設定された数値に対して、確かに概ねそのように遂行されているという認識だが、さらに一段の、いわゆる効率化というか、政策の優先順位を検討していくということが大事ではなかろうかと思う。

(田巻委員長)

- ・佐野委員いかが。

(佐野委員)

- ・1の「行政改革プラン2010の点検評価について」の内容だが、こちらについては、私自身はこの通りでよろしいのではないかと考えている。

(田巻委員長)

- ・概ねこれでよいと言うことでよろしいか。
- ・鷺見委員いかがか。

(鷺見委員)

- ・2点だけお話させていただきたい。
- ・(1)の②だが、紙ベースの意見の時にも述べさせていただいたが、外部評価といった時に、情報公開の程度は非常に客観的に見えやすい部分はあるが、他の機関が出している外部評価が、例えば、様々な指標を集めてきて、多変量解析のようなものをして出てきた数字が上位にあるということで、新潟市があたかも、あたかもという言い方は失礼だが、数字が上にあるということで、革新度が高いという評価をされている。
- ・しかし、何が一体貢献しているのかというところをきちんと丁寧に見られているかどうかは、検証しておく必要があるのではないかと考えている。
- ・どういう変数を多変量解析の中に入れた結果として、これが出ているのかということもきちんと把握されて、こういう文面が出てきているのか。
- ・「これは、具体的にどういう意味で評価が高いのか」と言われた時に、説明ができるかどうかということは非常に大事なことではないかと考えている。そこが1点気になっている。
- ・もう1つは、(2)の④で、先程佐野課長から説明していただいて、内容は噛み砕いて分かったが、これは外部の方が見る可能性もあるのかもしれないが、表現としては具体的に何を言っているのかが分かりづらいのではないかという気はしたので、その点を付け加えさせていただく。もう少し具体的な記述があってもいいという気がした。

(田巻委員長)

- ・それでは、渡邊委員。

(渡邊委員)

- ・今のご意見と重なる部分はあるかもしれないが、全体の行政改革プラン2010の点検評価という大枠のところは概ね良好というところで、そこを基点に全体像が描かれていると思うが、それでいいのかというところがある。
- ・「歳出削減も概ね達成の見通し」と、先程行政経営課長からお話があったが、12の達成になっていない項目があるけれども達成しているとか、今鷺見委員がおっしゃったように、外部評価で高い評価結果とあるが、この外部評価は誰がどういう観点で評価しているかということで随分結果は違ってくると思うので、その辺がどうなのだろうと思う。
- ・全体像、全体で見れば概ね良好だという判断をするのかどうかを、まずこの委員会で決めないといけないと拝見して思った。

(田巻委員長)

- ・全体的な判断のところ、まず概ねいいのかどうかというところ、一番大事なところ

ろだと思う。

・これについては、佐野委員が概ね良好ではないか、この記述の通りで良いのではないかとということ、他の委員の方々については、一部そういった進捗が進んでいるところもあるが、よく見るとそうでない部分もあるし、なおかつ外部環境が非常に変化が激しく、そういった認識のもとで見ると、もっとスピードをアップするような、そういった表現が必要ではないかというようなご意見が多かったと思う。

・この内容と書きぶりというのは、かなりあるのだろうと思う。

・例えば、(1)の「概ね良好に推移している」、このような表現が出てしまうと、全体が何となくそういうふうにならざるを得ない可能性があるし、ただそれだけではないということを書きこんで書いていただくということ。

・(2)の①についても、「人員の削減については達成が難しい見通しであるが、定員適正化の取組みは継続的に実施されている」というような書きぶり、これは逆ではないかと。

・逆に言えば、定員適正化の取組みはやっているが、目標についてはこれは難しい見通しであるわけだから、そういった方が、委員の方々の認識に近いのではないかと感じられる。

・この辺について、まず、皆さん、いかがか。

(佐野行政経営課長)

・ご指摘いただいた点について、基本的な要素としては恐らくこれで良いと思うが、最終的に「良好に推移している」という判断をした部分の書きぶりや、うまくいっているところと、まだうまくいっていないところについては、その辺をもう少しはっきりと両論で書く形に修正したいと思う。

・もう一つ、外部評価のところの「高い評価結果となって表れている」という記述は、驚見委員からもご指摘があった通りだと思っている。ご指摘にあったような多変量解析のようなことをした上で、どういう原因でそうなっているかということまで詳細に分析している結果ではない。外部評価による一つの評価という形でその辺の書きぶりは修正を検討させていただきたい。

・結果として、こういう結果がいくつかの評価で表れているということは事実なので、外部評価の部分は残した上でその書きぶりは修正させていただきたい。

(田巻委員長)

・今のご説明に対していかがか。

・要するに、概ね良好というものを残しつつ、なおかつ、遅れているものはきちんと遅れているというような記載に、もう少しこの部分の表現を改める。こういうような説明だったが、委員の方々いかがか。

(驚見委員)

・今程課長からご説明があった通りで結構だと思うが、こういう風に並列で書いてしまうと、2010 でやったことが評価されて外部評価に繋がっているというように読めることもあると思うので、その中身、どういう項目で評価されているのかということが大事で、2010 との関係性がリンクしていればこういう書きぶりでもいいと思う、ということをつけ加えさせていただく。

(田巻委員長)

・例えば、外部評価スタンダード&プアーズの評価だが、このデータは 2009 年か何かのデータ、それ以前のデータとか、情報公開度についても 2010 年度の公開度というこ

とだから、当然前の評価という形になる。

・直接的には、この 2010 の施策を遂行した評価には当たらないのではないかと思うが、その辺の表現の仕方、その辺についてご検討いただきたい。

・委員の方々でもそういったことで、全体的に良好かどうかということやはり疑義があるというご意見もあるので、その辺をきちんともう一度修正する等していただきたい。

(佐野行政経営課長)

・確かにおっしゃるように、(1) のところは、「これまでの行政改革全般の進捗」という見出しの中で、②のその外部評価が出てきているかと思うが、一方で、①のところが 2010 の全体としての評価になってきている部分もあるので、(2) との関係の中でどう書き分けをするかは、もう一度整理させていただきたい。

(田巻委員長)

・他になれば 2 番の方にいきたいと思うが。また全体で、後でご意見があれば伺いたいと思う。

・では、2 番の方に進みたい。

<2. 新潟市の行政運営における課題について>

(田巻委員長)

・2 の「新潟市の行政運営における課題について」ということで、(1) 財務状況、(2) 組織・職員の状況という形になっているが、これについてご意見お願いしたい。

・まず驚見委員、いかがか。

(驚見委員)

・財政状況ということで、中身については特に異論はないが、書き方の問題、例えば歳入、取る側と出る側等、少し仕分けをされて記述した方が全般として入ってきやすいという気がする。

・(1) のところだが、歳入があったり歳出があったりというような形になっているところが一つ気になった。

・次のページ、これは少し細かい話だが、(1) の⑤番に「機会費用の損失」というのが、「機会費用」というのは「得られなかった便益」ということだから、それが失われるという意味では確かに当たっているのかもしれないが、ちょっと見慣れないという気もするので、「機会損失に繋がっている」くらいでもいいのかもしれないと少し思ったということだけ、最後付け加えさせていただく。

(田巻委員長)

・それでは、渡邊委員。

(渡邊委員)

・2 の(1) については、今のところ、このような形でいいかと思うが、1 ページの③の「歳入確保の柱として、企業誘致や起業支援、雇用の場の確保、交流人口の拡大などの政策に一層の力を注ぐ…」と、「使用料・手数料の見直しや、新たな財源確保…」が、並列的に書いてあることに少し違和感がある。見直しの部分とは別建ての方がいいと思う。

・歳入ということについて、自主事業、自主的な事業をやっていくというようなことがあったかと思うが、その辺を積極的に、歳出削減はもちろん大事だが、歳入を確保するというのもう少し明確にというか、重点的に書いていただきたい。

・これからの時代は、歳出を削減するだけでなく、どうやって歳入も収入も上げていくかということを具体的・重点的に書いていただけたらと思う。

(田巻委員長)

・それでは、大橋委員。

(大橋委員)

・書いてあることについては議論したものを集約してもらっているので、1項目1項目については異論はないが、ここにこういったものをプラスしたらどうかとか、そういった意味で一点申し上げる。

・財務状況の③に該当する、歳入の確保という部分については、ここに書いてあるだけでは当然ないと思う。

・先程私がふれた、ある意味高齢者の活用というか、それが歳入の確保と、地方自治というのは私はある意味結びついているのではなかろうかと思う。そういうことを、プラスで書かれた方がいいかと思う。

・「65歳以上が高齢者」と一律に線を引っ張って、社会から退場してもいいという風潮を、まだまだ働けるという風に。それは雇用の創出にもなるし、付加価値を生むから。これを財務状況の中に入れるかどうかは少し考えるが、歳入確保という欄があったので、ここで私は申し上げる。

・行政改革の評価をするこの立場で、私が言っていることはある意味政治判断が非常に絡んでくるようなことをいつも申し上げていて、その意見がマッチしているかどうかは自信がないが、政令市新潟市をどうやっていくかということがあって、これがあるはず。行政改革、行財政改革の1項目1項目があるはず。

・この場で私がこういう意見を言うことがどうかと思うが、今の点と、もう一点。

・財政が厳しい、国からのお金も段々減るということ、そして市も一生懸命職員を減らしている、歳出の削減を図っているということ、共通の認識として市民の皆様にもどう分かってもらうかということが大事ではなかろうか。

・もう一点、書きぶりというか、何のためにこれを行っているかということにいきついてしまうが、役所だけ、市だけ、行政だけが一生懸命やっているみたいな、一方、住民は「あれをして欲しい。これをして欲しい。」という、そういう視点でしか行政と市民が対話していない。

・市民から、「こんな財政だから、我々の市のことだから、こうしよう。」ということが出てくるような、そういう評価の方向、視点があってもいいのではないか。

・例えば、この「職員・組織の状況」と出てくるが、これは最初に申し上げたように、一つ一つは全部議論したことだと思うので、それはそれで私としては異論はないが、②「大きな区役所、小さな市役所」、これは市長が一生懸命言っているのか分からないが、これはまさに政治判断というか、これはとても大きな問題で、個人的な意見というのは私は持ち合わせているが、経済同友会という会の代表をしている関係上、ここでは敢えて話さないが、これは当たり前のごとく、これが是としてやるのであれば、これを否とする場合と180度変わってしまうと思うことが多いと思う。

・そういう全体を、これで骨格という風に今位置付けて、これはどうかという話で、こういう話ばかりしていると恐縮だが、そういう視点をもう少し意識しながらまとめていった方がいいのではないかという意見。

(田巻委員長)

- ・それでは、佐野委員。

(佐野委員)

- ・内容については、概ねこの通りでよろしいのではないかと思うが、一点質問がある。
- ・①②③④⑤とあるが、これはまとめる時、箇条書きにまとめるのか。
- ・例えば、(1)の財務状況で⑤「これまでの取組みを見ると…」と始まっているが、どのような取組みだったかというところや、(2)組織・職員の状況①「新たな行政課題への対応により…」で始まるが、これは職員の削減について申し上げたい事項ではないかと思うが、何を説明するのにこういう文章表現になっているのかが、最後まで読まないと少し分からないというところがあるので、その辺り少し質問させていただきたい。

(田巻委員長)

- ・ここに書いてあるのは、意見が出されてきたものを網羅的にというか、さらにまとめたのがこの文章のため、これを全部載せると、お互いに少し違うようなところまで全て一緒になってしまう可能性がある。
- ・それを全部並列に並べた場合は、あまり意味がない提言書になると思う。
- ・委員としてある程度共通性のあるものとして出すためには、ある程度文章が矛盾しないような形で出さざるを得ないと思うが、いかがか。

(佐野行政経営課長)

- ・最終的な提言書のまとめ方かと思うが、こういう形で箇条書きにさせていただいた方が、実際に公表した時に見やすいと思ったので、今回はそういう形で整理をさせていただいている。
- ・提言書の形としては、一つの文章になっているものが多いと思うが、そちらの方がこの委員会としては良いということであれば、そういう形にしたい。
- ・一応、一つの繋がりとして作っているつもりで、そういう修正は可能だと思う。
- ・今ここにお出した段階では、こういう形で項目としていくつか分けてお出した方が見やすいと思ったが、他の委員の方々のご意見もお聞きした上で修正を加えたい。

(田巻委員長)

- ・これについて、どうか。ご意見はあるか。
- ・一度やはり文章にしてから案にするか。今どちらの方の文書をというのとはなかなか難しい。

(佐野委員)

- ・分かりやすければどちらでも。

(田巻委員長)

- ・分かりやすければどちらでも、そうか。

(渡邊委員)

- ・確認していないが、プラン 2005 に対しては同じような点検評価が行われて、提言が出されたということだと思うが、それはホームページか何かで見ることができるのか。

(佐野行政経営課長)

- ・はい。2005 の時も同じような委員会をやり、委員会から提言していただいている。
- ・その時はどちらかという、もっとざっくりとした書きぶりで、全体として文章になっていたと思う。箇条書きではなかったと思う。

(渡邊委員)

- ・1の「点検評価について」で「(3) 個別取組みに対する意見」というところまで、多分見てもらえないと思われます。この2番の「新潟市の行政運営における課題について」の(2) 組織のところに入るのかどうか、「大きな区役所、小さな市役所」というところに、住民との協働や市民との協働というのが、新たな時代の市の行政のあり方において大きな役割を果たすものであると思われるので、どこに盛り込むかはありますが、そういうものをきっちり書いて欲しい。
- ・それには、こういった提言書を、市民が見てより分かりやすい形というものを、今回の視点に考えてもらいたい。
- ・市で出している「大きな区役所、小さな市役所」という流れの中で、これから先の未来において、市民や、先程大橋委員がおっしゃった高齢者や、女性、女性はおっしゃってなかったので付け加えさせていただいて、そういう一人一人の市民の力をどうやって活かして地域をより住みやすい状態にしていくのかという視点は、とても大事な視点になろうかと思うので、それをきっちり入れていただきたい。

(田巻委員長)

- ・いろいろ注文というか付いたが、一つには、市民からの関わり方というか、参加の仕方や、官だけ行政だけでやるのではなく、市民などを交えた形での新しい導き方というものも組み込んでいただきたい。
- ・一番最初に大橋委員がおっしゃったように、財務状況が相当厳しいというようなニュアンスは、もう少し強く出していかないと。
- ・あるいは、もう解決するのであれば、歳入と歳出の方も含めて施策をもっとスピーディーにというような口調というか、認識をもう少し強めていただきたい。皆さんのご意見を絡めるとそういう点がある。
- ・また、文書的に、先程鷲見委員がおっしゃったように、歳入と歳出が入り乱れていたり、「機会費用の喪失」、その辺のいろいろな言葉があるかと思うが、その辺についても一度精査願いたい。
- ・他に何か意見等あるか。
- ・それでは、次に移ってよろしいか。

<3. 次の行政改革プランの策定にあたって>

(田巻委員長)

- ・次に、3の行政改革プランの策定にあたってというところ。
- ・ここには基本的な考え方と留意すべき事項と2つあるが、これについては、いろいろな意見があろうかと思うが、まず大橋委員からご意見を。

(大橋委員)

- ・先程申し上げたことを、ここの部分で言えば良かったかというところもある。
- ・スピーディーな時代の潮流、流れがテンポアップ、速くなっているので、これから2年間の行革の方法ということで我々はやっていると思うが、過去に設定された段階と

今の状況が大きく異なっているということは、力説していった方がいい。

・我々が普通の会社の会計状況を見ると、B/S、P/L といって貸借対照表や損益計算書を見る場合に、法律に基づいた会計処理というか、発生主義というか、今、準発生主義みたいなことやっているが、そういったことが分かりやすく開示されるべきだと思う。

・また、それについて市民が、ある意味もっと財務の状況を見れる。つまり、これからのことを考えるときに、こんなに厳しいとか、厳しいけれどこれを優先させてもらおうとか、この部分は我慢できるのではなかろうかとか、こういうことを認識できる提言というか、外部評価でありたい。

・合併して政令市になって、6年目であり、そろそろ先程の「大きな区役所、小さな市役所」と関係があると思うが、今後の方向付けとして良いのかどうか、そういうところも評価委員会として踏み込むべきなのか。あるいは、設定されたことについて外部評価すればいいということなのであれば、間接的なことしか言えない。

・設定された、当局がこのように目標立てたというものについて、「こうではないか」ということはできると思うが、いただいた資料の中の参考資料「政令市にいがたのあり方検討委員会」、その場で私がこのように言うなら分かると思うが、評価委員会にそういうことが馴染むのかどうかを自分なりに考えてみると、外部評価とは内部の評価があって外部評価があるので、そこへ踏み込むと、大雑把な、的の絞れない評価委員会になってしまう。まとめ方としては、そのことをしっかり意識して線引きすることが肝要ではなかろうかと思う。

(田巻委員長)

・次に、鷺見委員。

(鷺見委員)

・3の「(1) 基本的な考え方」というところで、個人的に意見を述べさせていただいたところを取り込んでいただいているので、特に私から申し上げることはないが、気になっていることが1点ある。

・例えば、会計情報や財務情報を使えるようにしていこうとしたときに、アセットマネジメントとも関連性があり、一般会計でも収支管理をしっかりした方がいい、受益と負担といったことが文章にも出てきているが、こういったことが関連付けられて理解できるようになっているとより良いのではないかと考えている。

・全く別の物だという風に捉われてしまう可能性が今の書き方だとあると思うので、そういった点が最終的な部分で上手く整理されるとより良いのではないかと考えている。

(田巻委員長)

・渡辺委員どうぞ。

(渡辺委員)

・この3の「次の行政改革プランの策定にあたって」という書きぶりというか、(1)「基本的な考え方」と(2)の「留意すべき事項」というのは、どういう関係性で捉えたらよろしいか。

・個別意見的なものというか、(2)の「留意すべき事項」は、この形で(1)を補足するというか、その辺の関係性が良く伝わらない、分かりにくいと思うが、いかがか。

(佐野行政経営課長)

- ・(1)と(2)の関連性について、(1)の「基本的な考え方」のところは、次期の改革プランの骨組みにあたるようなご意見を書かせていただいた。
- ・①は、次期プランの計画期間に関する部分で、計画期間中にも検討すべきことも加えてあるが、基本的には計画期間についての記述である。
- ・②は、今ある重点改革項目という3本の柱をどうしていくかに対してのご意見。
- ・③は、成果の指標で歳出と人員ということで成果の指標に対してのご意見。
- ・④⑤は、直接プランの骨格に関係するものではないが、基本的に理念的なものをここには整理させていただいた。
- ・(2)は、より具体的な、例えば目標設定の仕方の話や、未達成項目や達成項目をどうするといったご意見、今後の新たな取組へのご意見や、そういうものを「留意すべき事項」として挙げさせていただいた。(1)と(2)を整理する中で若干動かした方がよいものがあるかもしれない。

(渡邊委員)

- ・課長がおっしゃったように、(1)の基本的な柱があって、そこに対して(2)の留意すべき事項はこうだといったことがリンクする形でまとめていただいた方が、読む側は分かりやすい。
- ・(1)で基本的な考え方の柱が5本あるのに、(2)は、バラバラと散漫に書いてあるイメージなので、どこがどう繋がるのかが、委員会に出ていらっしゃる方は今までの意見の積み上げがこのように集約されたということが分かると思うが、まっさらで読む人は少し分かりにくいので、その辺は関連項目でまとめていただきたい。
- ・成果目標について、歳入確保の取組みが具体的でない。
- ・「可能であれば目標設定し」となっているが、ここに「歳入の確保も成果目標を出してください」というふうに提言でできるのかどうかはあるが、企業でいえば売上を上げていくのは非常に重要なことだと思うので、そのように思った。
- ・また、企業では、損益計算と資金繰りをダブルで考えていかなければいけないと思うので、発生主義の公会計の導入を進めて、繰越項目が分かって、単年度の予算だけで済むということではない。
- ・先程から大橋委員もおっしゃっていたように、国も金がなくなっていて、市もなくなっているとしたら、少ない資金をどう活かしていくということであれば、そういう会計を導入し、繰越をしてより良い行政の事業をやっていくというのが、これからは必要ではないかと思う。

(田巻委員長)

- ・佐野委員どうぞ。

(佐野委員)

- ・私の個人的な意見だが、(1)基本的な考え方の③で、「歳出の削減、人員の削減」の次に、「民間の活用」という文章を入れていただきたい。
- ・また、3つの重点改革項目の中で「新しい公共」という言葉を使っているが、これがどのあたりまで馴染みがあるのかというところがある。使い続けることで浸透していくのかもしれないが、馴染みがあるのかどうかというのが一つ疑問に思った。

(田巻委員長)

- ・3についてはいろいろなご意見があったが、表現として分かりにくい。
- ・例えば会計一つかなり細かく違い、成果目標というものが数値で出てきた時には分

かりやすく、会計上こうだということではなく、市民目線、市民の方から見てもよく分かる工夫をしていただきたい。

・「新しい公共」という言葉を使っているが、行政の方からは当たり前のことだと言われるかもしれないが、馴染みのない言葉というのはたくさんあるので、アカウントビリティで住民に見せるということが一番大事なことではなからうかと思う。それがなければ、民と行政の役割分担や、協働ということが書いてあるが、そういったご意見を踏まえて整理していただきたい。

・その他何かご意見はあるか。

・1から3まで分けてやったが、全体的に振り返っていただいて結構だが、いかがか。

< (3) その他 >

- ・政令市にいがたのあり方検討委員会の検討状況報告
- ・新潟市事業仕分け外部評価会議の結果報告
- ・行政改革作業チームの意見

(田巻委員長)

・それでは、議題の3「その他」として3つの報告が事務局からある。

(佐野行政経営課長)

資料4・5・6説明(省略)

(田巻委員長)

・3点、政令市のあり方検討委員会、事業仕分け、作業チームのアイデアについてご報告いただいた。

・全般的に、感想なりご意見をいただければと思うが、まず、政令市のあり方検討委員会には渡辺委員がご出席のため、ご意見をお願いしたい。

(渡邊委員)

・政令市のあり方検討委員会に出席させていただいているが、課題が広すぎていろいろな意見が出て、まとめきれないという状況。積極的な意見が出ているとご理解いただければと思う。

・資料4にあるように、検証の視点が「拠点性を活かしたまちづくり」「行政区によるまちづくり」「市民との協働による地域の特色あるまちづくり」「より自主的・自立的なまちづくり」と大まかな視点のため、個別の意見等がいろいろ出ている。

・前は同志社大学の新川先生からレクチャーをしていただき検討した。「大きな区役所、小さな市役所」には、市民との協働・参画が必要だということ、これからの政令市に必要なという話があり、それを市民が選択するかどうかが今後の問題だが、そのような視点での話し合いが行われている。

(田巻委員長)

・抽象的などころが多く、どのように具体化していくかについては、これからの会議で見えてくるところか。

・事業仕分けには、鷲見委員がご出席のためお願いしたい。

(鷺見委員)

- ・9月の頭に事業仕分けに参加させていただいた。先程課長からの説明にもあり、市長も記者会見でおっしゃっていたが、仕分けは結果もあるが、挙がってきた論点が非常に有益だということ。
- ・こちらの点検・評価委員会との関係で言えば、個人的に意識しているのは、コストの感覚を持ちにくいということが分かった。
- ・仕分けでの質問の回答からは、このサービスに一人当たりいくらかかっているのかという情報が明るみになってこない。担当課の方が把握されていないということ。
- ・そもそも制度上の問題もあり、現場の方が把握しようとしても会計制度がそうになっていなければ把握できるはずもないことで、いくらコスト意識を持てと言っても難しい状況。
- ・公会計の制度改革が必要で、バランスシートとかP/Lは作ることが目的ではなく、活用していただきたい。
- ・協働ということと関係しているが、旧市町村で、サービスや料金の水準がバラバラで、それがずっと放置されている。その合理的な理由は何かと聞いても答えが見つからない。
- ・先程大橋委員がおっしゃっていたように、行政と市民が「あれください。これください。」という関係になってしまっている。
- ・事業仕分けは、そういう現状を市民に知っていただく機会になったと思う。
- ・行革プランの中でも、地域のことを行政と市民が話し合っ、コストも考えてやっていかないといけない時代にきているということを、仕分けを通じて勉強させていただいたと思っている。

(田巻委員長)

- ・それでは、佐野委員。

(佐野委員)

- ・感想のようになるが、よろしいか。
- ・行財政改革を徹底的に進めて、あり方検討委員会が出てきた「拠点性を活かしたまちづくり」に財源を投資していただくことを切に願っている。

(田巻委員長)

- ・次に大橋委員。

(大橋委員)

- ・今程、事業仕分けと政令市にいがたのあり方検討委員会の話があったが、聞いた限りの印象で間違っていたら申し訳ないが、新潟市の事業仕分けについては、「廃止」や「民営化」がとても少ないと感じた。むしろ「拡充」したらいいとか。
- ・市の財政が大変なところにきている、国（の財政）も大変であるということの共通認識を持っていない一つの表れだと思った。
- ・先程説明いただいた職員の方からの意見にも、市民にもそういう考え方を持ってもらいたいという意向が書かれていたことに、私は心強く思った。
- ・これは行政だけの問題ではなく共通の課題だということを、もっと市民にPRしていかなくてはならない。
- ・政令市にいがたのあり方検討委員会の構成メンバーを見ると、学者の方が多い。偏向しているのではないかと感じた。
- ・ここに、「市民との協働」や「新しい公共」等あるが、先程佐野委員が質問しかけて

いたが、大事な観点だと私は思っている。

・「新しい公共」等、新しいフレーズでは、大半の市民の方は何のことか分からないので、議論の余地がない。

・私なりの理解で言えば、「新しい公共」とは「新しい地方自治のあり方」。国も県も市も厳しいので、みんなの知恵で新しい自治体を作っていこうということ。

・地方分権というが、分権とは国の権利を持つてくることで、私は主権という言葉だと思っている。地方主権。主権というなら、自分たちで自立しなくてはいけない。

・自立するには義務もあり、義務をどのように履行するか、どうやって自分が自治体に貢献できるかという観点が、今こそ求められているのではないかと考える。

・「新しい公共」という手法の中に、「協働」があり、NPO 法人や高齢者と女性の活用が活性化する。雇用の創出にもなる。

・自分たちの社会は自分たちで決めるということを、みんなの共通認識にする必要がある。

・市が削減していることについて努力は認めるが、さらにもう一段の削減はすべきであり、どのようにすべきかと言えば、やる事業を削ればいい。

・今やっていることをそのまま人だけ削れといっても限界がある。やっている事業が多すぎるので、事業を削れば削減になる。それを協働でやるということ。

・「新しい公共」という行政用語で分かりにくいのであれば、今の解説が正しいかは別として、身近なものにしていくことが、本当に自立した地方自治、住民自治だと思う。

(田巻委員長)

・自治体がどういうものか。自治体は、行政のためではなく住民のためにあるので、自治体の魅力をどのように高めていくかということは行政の役割もあり、住民にも役割はある。それぞれに役割がある。何もかも行政にやらしてもらえばいいということではない。

・しかも財政的に厳しくなっているという制約の中で、スピートアップして対応していかなければならないとなると、形や仕組みを変えていく必要がある。

・そのために何が必要かという点、公共サービスにも価値があり、驚見委員が言われたコスト意識やサービスの成果物の関係、サービスの受益者が限られたものであるならば公共でやる価値があるのかをしっかりと把握するために、指標・数値がないと抽象的になりがちなので、コスト、費用対効果を認識して事業を行っていく必要がある。

・今、ご意見がいろいろ出たが、提言の中に今日の意見も含めていただきたい。

・もう少し時間があるので、全般的に何かあればご意見をお願いしたい。

・先程、職員の方からのアイデアを聞いたが、難しいものもあるが、すぐにでもやっていただけるものもたくさんあると思う。アイデアはあげるだけでなく、できるものから実行に移していただく必要がある。それが行政のスピードにもつながると思う。

・作業チームの方、何かご意見はないか。この機会に何か言いたいことはないか。

(渡邊委員)

・1つ質問、よろしいか。

・作業チームのアイデア出しについて、これを具体化する手法はどうなっているのか。

・せっかく 30~40 代の職員が集まって意見を出し、評価されるべき意見がまとまっているが、これを具体化する手法が市役所にはあるのかを教えてほしい。

(佐野行政経営課長)

・作業チームのアイデアに関わらず、業務改善のアイデアについては、市長以下庁議メンバーが集まって発表会を実施し、実現に移していくということを行政経営課が中

心となって進めている。

・今回のアイデアについては、行政改革プランの見直しということで、作業チームのメンバーの協力により出されたもののため、できるだけプランの中に盛り込めるものは、関係する部署と相談・調整して盛り込んでいきたいと考えている。

(渡邊委員)

・大橋委員もおっしゃっていたが、時代の流れに沿ったスピーディーな対応が市役所にも求められているので、迅速に実行できるシステムができるといいと思う。

(田巻委員長)

・他に何かないか。作業チームの方、いかがか。最年少の方とか。

(作業チーム員)

・この会議に出席させていただき、これほど大きな視点で市の事業を考えることは普段ないので、勉強になった。ありがとうございました。

・作業チームのアイデア出しとして、私は課の仕事の棚卸しを提案させていただいた。
・これまで仕事をしてきた中で、例えば補助金の使い方についても、もっと他にやり方があるのではないかと、本当に必要な補助金なのか等、仕事をしている中で担当が思うことは必ずあるが、それを発表する場がないので、年に1回くらいは課の全員の仕事の棚卸しがあってもいいのではないかといいと思い提案させていただいた。

(田巻委員長)

・他にも、これは言っておきたいというようなことはないか。

(渡邊委員)

・この作業チームのアイデア出しは、毎年あるのか。

(佐野行政経営課長)

・作業チームのアイデア出しは、この委員会や次期改革プランのための作業。

(渡邊委員)

・毎年あればいいと思うが。

(田巻委員長)

・企業であれば、改善提案としていろいろ出したりする機会があるが。

(佐野行政経営課長)

・改善提案をする機会は常時ある。
・この行政改革プランへの意見をテーマとして出してもらうことを作業チームが行ったのはこの委員会と次期改革プランのため。
・新潟市の場合は、「やろてば」という、市長も含めて改善実践や職員提案を聴く機会が年に1回あり、柔らかい雰囲気の中で発表が行われている。
・他の政令市の状況も把握しているが、かなり積極的にやっている方だと思う。
・ISOの中でも窓口改善等も積極的に行われ、随分進んでいると思う。
・作業チームの提案は比較的大きなものだが、できるだけ前に進めたい。

(田巻委員長)

- ・それでは、他に意見がないなら、今回はこれで閉会したいが、よろしいか。
- ・次回委員会では、本日の各委員からのご意見を事務局から整理いただき、提言の案をまた議論していきたい。
- ・それでは、第3回の委員会を終了する。

<閉会>

(佐野行政経営課長)

- ・本日は、素案にご意見いただきありがとうございました。
- ・作業チームのアイデアもご覧いただいたが、それらもうまく取り込んで最終的に改革プランに繋げていきたい。
- ・いただいたご意見については、組み立てを変えなければならないところもあるが、次回、提言案としてご提示したものでご議論いただきたいと考えている。